

CIE 図書館及びアメリカ文化センター資料に関する研究： 仙台アメリカ文化センター及び横浜アメリカ文化センター 旧所蔵資料の調査を基に

石原真理

岐阜女子大学 文化創造学部文化創造学科

(2017年9月11日受理)

A Study on the Collections of the CIE Information Center and American Cultural Center: An Analysis Based on the Collections of the Sendai American Cultural Center and the Yokohama American Cultural Center

Faculty of Cultural Development,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

ISHIHARA Mari

(Received September 11, 2017)

要 旨

第二次世界大戦後、連合軍総司令部 (GHQ/SCAP) の一組織である民間情報教育局 (CIE) は、日本の民主化、非軍事化を目的とし、全国に CIE 図書館 (Information Center) を設置した。CIE 図書館はアメリカから取り寄せた図書や雑誌を一般市民に提供し、来日したライブラリアンたちは、レファレンス・サービスや児童サービスなど、欧米流の図書館サービスを展開した。

CIE 図書館及びその後継機関であるアメリカ文化センター (ACC) については、事業内容やサービスについての研究は進んでいるが、提供した資料についての研究は進んでいない。CIE 図書館及び ACC は、閉鎖時などに、地元の大学図書館や公共図書館に多くの所蔵資料を寄贈したが、現在でもいくつかの図書館には旧所蔵資料が継承されている。筆者はこれまでに横浜 ACC の旧所蔵資料を調査・分析した。本研究は、仙台 ACC の旧所蔵資料を調査・分析し、横浜 ACC 資料と比較することにより、CIE 図書館や ACC がどのような資料を提供していたのかを明らかにすることを目的とする。分析の結果、仙台 ACC の旧所蔵資料には、横浜 ACC の旧所蔵資料と多くの共通点があることが明らかになった。

1. 本研究の背景と目的

第二次世界大戦後に連合軍総司令部 (General Headquarters/Supreme Commander for the

Allied Powers; GHQ/SCAP) の一組織である民間情報教育局 (Civil Information and Education Section; CIE) により設置された CIE 図書館 (Information Center) は、日本の民主化、

非軍事化を目的とする機関ではあったが、当時の日本国内で入手することの困難な外国語の図書や逐次刊行物などを提供することにより、最新の海外の情報を日本人に伝える役割を果たしていた。また、各地の CIE 図書館の館長など指導的立場にあったライブラリアンたちは、日本においてアメリカ流の図書館サービスを行ったため、日本の図書館にレファレンス・サービス、開架式書架による資料の提供など新しいサービスを普及させる役割を果たした。

CIE 図書館を利用した人々の中には作家の大江健三郎氏¹⁾(松山 CIE 図書館)、後に東北大学総長となった西沢潤一氏²⁾(仙台 CIE 図書館及び仙台 ACC) を利用)、東京造形大学学長の鈴木二郎氏³⁾など著名な人々も含まれていた。また、心理学⁴⁾、芸術、文化人類学⁵⁾など、CIE 図書館が提供した資料を利用した結果、発展したと言われる学問分野も確認されている。

以上のように占領期の日本の学問や図書館界に影響を与えた CIE 図書館であるが、実施した事業やサービスに関する研究と比較すると、提供した資料に関する研究は進んでいない。1962年の横浜 ACC における研修を基に執筆された吉井和子の「合衆国海外情報センターの性格：図書館活動を中心として」⁶⁾、筆者による「横浜アメリカ文化センター所蔵資料と設置者の意図」⁶⁾などが所蔵資料に関する研究として確認できるものである。本研究では、現在東北大学附属図書館が所蔵している、仙台 ACC の旧所蔵資料を調査分析し、筆者が過去に調査・分析した横浜 ACC の旧所蔵資料を比較することにより、CIE 図書館及び ACC がどのような資料を提供していたのかを明らかにすることを目的とする。なお、CIE 図書館所蔵資料と ACC 所蔵資料は一体的に提供されており、現在もまとまったコレ

クションとなっているため、両者をともに調査・分析の対象とする。

筆者は2008年に、CIE 図書館や ACC の旧所蔵資料がどこに、どれほど残されてきたかを調査し、その結果を「CIE 図書館及び ACC 資料の継承状況」としてまとめた⁶⁾。数千冊以上継承されている図書館は、新潟大学附属図書館(蔵書約5,000冊及び視聴覚資料)、東北大学附属図書館(約10,000冊)、神戸市立図書館(約4,500冊)、神奈川県立図書館(約10,000冊)である。その後の調査により愛知県図書館に数千冊残されていることが判明した。このうち、愛知県図書館については目録のデータが電子化されていない。

本研究においては、蔵書数が多く、かつ資料データが電子化されている東北大学附属図書館の蔵書を調査の対象とすることにした。また、これまでに行った横浜 ACC の旧所蔵資料との比較が可能であり ACC の旧所蔵資料の大部分を占める洋書を、調査・分析の対象とすることにした。

2. CIE 図書館及びアメリカ文化センターの歴史

CIE 図書館や ACC については多くの文献があり、筆者のこれまでの文献にも記したことから、ここでは簡単に述べることにする。

GHQ/SCAP の一組織である CIE は、1951年までに日本国内に23の CIE 図書館を設置した。CIE 図書館は、“日本の旧態依然とした図書館を、将来民主主義社会のニーズに、一層よく合致させるためのモデル”⁷⁾とするために設置されたが、実際、公共図書館サービスの手本となり、その後の公共図書館の発展に大きな影響を与えたと言われている。

CIE 図書館の第1号は1945年11月15日に東京の内幸町に設置され、1951年6月に設置

された北九州 CIE 図書館に至るまで、全部で23の CIE 図書館が設置された。図書館を設置するにあたっては、各分野の専門家とライブラリアンが協力して共通のコレクションを作り、その上で各地域の事情や希望を鑑みながら蔵書を追加していく手法が用いられたため、開設を迅速に進めることが可能であったという⁸⁾。1948年には大阪 CIE 図書館をはじめ14館もの CIE 図書館が開設されている⁹⁾。今回の調査対象とした、仙台 CIE 図書館と分析対象とした横浜 CIE 図書館はともに1948年に設置された。

サンフランシスコ講和条約発効（1952年）に伴い GHQ/SCAP は解散し、「CIE 図書館はアメリカ陸軍から国務省の国際広報局（IIA）へ移管され、以後、アメリカ文化センター（ACC）と名称を変えて活動を続ける」⁸⁾ことになった。1972年には全国7箇所のアメリカン・センター（American Center; AC）に機能再編された。

3. 仙台 CIE 図書館及びアメリカ文化センターの歴史と資料

(1) 仙台 CIE 図書館

仙台 CIE 図書館（SCAP CIE Information Center, Sendai Unit）及び仙台 ACC については、元職員であった木村多実雄が執筆した「わが青春の回顧録：CIE 図書館とアメリカ文化センター」¹⁰⁾、中川正人による「仙台 CIE 図書館と仙台アメリカ文化センター」²⁾、内海貞太郎の著作『宮城県視聴覚教育史』¹¹⁾などにまとまった記述がある。

仙台 CIE 図書館は、日本で8番目の CIE 図書館として1948年5月27日に開館式が挙行され、翌28日から開館した¹⁰⁾。木村の著作によると「県庁に近い齊藤報恩会館（現「仙台プラザ」の所在地）」という石造りの立派な

自然史博物館1階に設置され、建物の中央入口には大理石を敷いたエントランス・ホールがあった。そのホールの正面が館長室、左側が図書室、右側が雑誌室でそれまでの閉鎖的な日本式図書館とは印象が全く異なっていた」¹⁰⁾という。

木村の著作には、所蔵雑誌についての具体的な記述がある。それによると、新刊の『マッコール』、『マドモアゼル』、『ヴォーグ』、などの婦人ファッション誌が含まれていたこと、半数近くは政治、経済、教育、物理、化学、生物、電気、機械、医学などの専門誌であったことが分かる。最も新しい研究論文を吸収しようとする熱心な大学生をはじめ、著名な教授たちに利用されたという。木村は主な雑誌のタイトルを挙げているが、その中には『アナトミー』『アーキテクチャフォーラム』『アプライドフィジックス』『バイオケミカル』『ケミカルアブストラクト』『シビルエンジニア』といった専門的な雑誌がある。

(2) 仙台アメリカ文化センター

「(1951年)9月8日サンフランシスコで日米講和条約が調印されると、“CIE 図書館”は米国政府の国務省に引継がれ、米国広報庁（USIA）文化交換局（USIS）の海外機関となる。1952年4月1日の通達により、CIE 図書館員は4月30日一斉解雇。仙台では同年5月6日から“アメリカ文化センター”の名称で発足した」¹⁰⁾。

仙台 ACC の開館式は、国連旗、日米両国旗が飾られ、日米両国歌の演奏のあと、アメリカ大使館二等書記官 R・M・ハーン氏の挨拶があったとのことである²⁾。仙台 ACC の事業は、主として米国国務省の文化交流計画に基づいて行われたが、CIE 図書館時代のローカル色を生かした行事も継承し、地域社会の文化センターとしての一定の役割を果た

していた²⁾。

ベトナム戦争が本格化する中で、USIA の予算が縮小され、機構も簡素化されるようになった²⁾。1968年、仙台 ACC は旧斎藤報恩館から東二番丁の長期信用銀行ビル4階に移転し、資料等は同ビル地下倉庫に保管されることになった²⁾。移転時に、洋書約1万冊が東北大学に、和書約2,500冊が仙台市民図書館に寄贈された²⁾。

1971年3月、アメリカ大使館広報文化局次長が宮城県を訪れ、「来る6月30日をもって、仙台、新潟、広島のACCが閉鎖することになった」と通告した²⁾。仙台 ACC の資料のうち洋書1,000冊は宮城県図書館に、和書800冊は仙台市民図書館に、視聴覚資料は東北学院大学、宮城県教育研修センター、宮城学院女子大学などに寄贈された²⁾。

4. 仙台アメリカ文化センター旧所蔵資料の調査

(1) 調査の概要

東北大学附属図書館が所蔵する仙台 ACC の旧所蔵資料のうち洋書と、神奈川県立図書館が所蔵する横浜 ACC の旧所蔵資料のうち児童書を除く洋書について、次の2種類の調査を行った。

調査①では、東北大学附属図書館が所蔵する仙台 ACC 旧所蔵資料と、神奈川県立図書館が所蔵する横浜 ACC 旧所蔵資料について、主に分類別のデータ数と構成比を比較分析した。横浜 ACC 旧所蔵資料の調査・分析では、書誌データのデューイ十進分類法¹²⁾ (DDC) の分類別データ数及び構成比を算出し、分類ごとの比較をした。その内容と OCLC (世界最大の書誌ユーティリティ。現在世界で最も多くの書誌情報を持っている。)

表1 仙台 ACC 及び横浜 ACC 旧所蔵資料比較

DDC10区分	仙台 ACC 旧所蔵資料						横浜 ACC 旧所蔵資料						OCLC 書誌データ数と分野ごとの構成比		
	1951年以前 (CIE 図書館時代)		1952-1970年 (ACC 時代)		合計		1951年以前 (CIE 図書館時代)		1952-1966年 (ACC 時代)		合計		書誌データ数	構成比 (%)	
	資料数 (冊)	%	資料数 (冊)	%	資料数 (冊)	%	資料数 (冊)	%	資料数 (冊)	%	資料数 (冊)	%			
総記	0	76	2.01%	113	2.39%	189	2.22%	114	3.52%	273	5.72%	387	4.83%	42,990	2.96%
哲学	1	86	2.27%	85	1.80%	171	2.01%	68	2.10%	77	1.61%	145	1.81%	40,382	2.78%
宗教	2	90	2.38%	35	0.74%	125	1.47%	86	2.66%	56	1.17%	142	1.77%	144,086	9.92%
社会科学	3	769	20.30%	1,682	35.60%	2,451	28.79%	661	20.42%	1,616	33.84%	2,277	28.42%	304,921	20.99%
語学	4	126	3.33%	315	6.67%	441	5.18%	73	2.26%	211	4.42%	284	3.54%	25,634	1.76%
純粋科学	5	41	1.08%	149	3.15%	190	2.23%	27	0.83%	103	2.16%	130	1.62%	101,246	6.97%
応用科学	6	74	1.95%	198	4.19%	272	3.20%	93	2.87%	385	8.06%	478	5.97%	239,036	16.45%
芸術	7	643	16.97%	431	9.12%	1,074	12.62%	464	14.33%	433	9.07%	897	11.19%	90,956	6.26%
文学・小説	8	914	24.13%	795	16.83%	1,709	20.08%	740	22.86%	686	14.36%	1,426	17.80%	194,949	13.42%
歴史・伝記	9	969	25.58%	922	19.51%	1,891	22.21%	911	28.14%	936	19.60%	1,847	23.05%	268,591	18.49%
合計		3,788	100.00%	4,725	100.00%	8,513	100.00%	3,237	100.00%	4,776	100.00%	8,013	100.00%	1,452,791	100.00%

* 『2017年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』の内容¹³⁾を一部修正。

* OCLC 書誌データは、1966年以前にアメリカで刊行された資料のうち、DDC が付与されている書誌データ数と構成比

の1966年以前にアメリカで刊行された図書
の分類別書誌データ数と構成比の比較をした
が、今回の調査では、横浜 ACC 旧所蔵資料、
東北大学附属図書館が所蔵する仙台 ACC 旧
所蔵資料、及び OCLC の書誌データと比較
した。比較は CIE 図書館時代（1951年以前）
と ACC 時代（1952～1971年）とに分けて行っ
た。横浜 ACC 旧所蔵資料のうち6.8%が児
童書であったが、仙台 ACC 旧所蔵資料には
児童書が含まれていないため、今回の調査で
は児童書は対象としなかった。

調査②では、横浜 ACC 旧所蔵資料の分析
の際に設定した7つの視点の内容に沿った調
査を行った。7つの視点は、「CIE 図書館と
ACC 資料との相違点」「児童書の収集」「ア
メリカの良い面について書かれた資料」「科
学技術について書かれた資料」「民主主義や
世界平和に関する資料」「地域に合わせた資
料」「赤狩り」の影響」である。

(2) 調査①の結果

東北大学附属図書館に所蔵されている仙台
ACC の旧所蔵資料、神奈川県立図書館に所
蔵されている横浜 ACC 旧所蔵資料につい
て、DDC 10区分ごとに資料数のカウントを
し、構成比を比較した結果を表1に示した。
表1では1966年以前に発行された図書のう
ち、OCLC に登録されている書誌データで、
かつ DDC が付与されている書誌データとの
比較も示している。ACC で所蔵している資
料の構成比と、同時期に刊行された資料の構
成比との相違を明らかにするためである。仙
台 ACC 旧所蔵資料については1951年以前に
刊行された資料を CIE 図書館時代、1952年
から1971年を ACC 時代とした。横浜 ACC
については ACC 時代を1952年から1967年と
した。仙台 ACC の閉鎖は1971年、横浜 ACC
の閉鎖は1967年であったためである。

調査対象とした蔵書の本数は、東北大学附属
図書館が8,513冊、神奈川県立図書館が8,013
冊とほぼ同規模である。

CIE 図書館時代に比べ、ACC 時代に増加
しているのは総記、社会科学、語学、純粋科
学、応用科学であり、減少しているのは哲学、
宗教、芸術、文学・小説、歴史・伝記と、両
者全く同じ傾向を示している。

特に社会科学の増加は、東北大学附属図書
館が20.30%から35.60%、神奈川県立図書
館が20.42%から33.84%と顕著である。両館
とも社会科学がほぼ3分の1を占めているこ
とは共通である。OCLC の書誌データの構成
比を見ると、社会科学は20.99%となっており、
ACC 時代の社会科学関係資料の比率が高い
と言えるだろう。

社会科学に次いで構成比が高いのが歴史・
伝記で、東北大学附属図書館の CIE 図書
館時代が25.58%、ACC 時代が19.51%、神
奈川県立図書館が28.14%から19.60%である。
OCLC の書誌データの構成比が18.49%で
あるので、相対的に高いと言えるだろう。表1
からは読み取れないが、個々の書誌を見ると、
Mark Twain の伝記や Lincoln 等アメリカ大統
領の伝記などアメリカ人の伝記が多いとい
う特徴を持っている。

文学・小説は公共図書館において一般的に
比率が高い傾向にあるが、東北大学附属図書
館の CIE 図書館時代が24.13%、ACC 時代が
16.83%、神奈川県立図書館は CIE 図書
館時代が22.86%、ACC 時代が14.36%とな
っている。OCLC の書誌データの構成比が13.42
%であるので、特に CIE 図書館時代は東北
大学附属図書館、神奈川県立図書館ともに文
学・小説の比率が高いと言えるだろう。

(3) 調査②の結果

調査②の結果を表2に示した。調査②では、

「CIE 図書館と ACC 資料との相違点」「児童書の収集」「アメリカの良い面について書かれた資料」「科学技術について書かれた資料」「民主主義や世界平和に関する資料」「地域に合わせた資料」「「赤狩り」の影響」の7つの視点から資料を分析した。

表2 アメリカ文化センター旧所蔵資料の比較

	仙台アメリカ文化センター資料	横浜アメリカ文化センター資料
視点1 CIE 図書館と ACC 資料との相違点	①年間受け入れ数 ⁹ が CIE 図書館の方が多かった。 ② CIE 図書館時代と比較すると ACC 時代は哲学、宗教、芸術、文学・小説、歴史・伝記の割合が減少し、社会科学、語学の割合が増加している。	①年間の受け入れ数が、CIE 図書館の方が多かった、 ② ACC は CIE 図書館時代に比べ、児童書や文学・小説などの割合が減少し、社会科学の割合が増加している、③ CIE 図書館と ACC は共にレファレンス・ブックが充実していたが、ACC に移行後は更にレファレンス・ブックの割合が高くなった。
視点2 児童書の収集	東北大学附属図書館には児童書の寄贈はなかった	CIE 横浜図書館時代には比較的多く収集していたが、横浜 ACC 時代にはそれほど積極的ではなかった。CIE 横浜図書館時代の資料の 10.03% であったが、ACC 時代になると 4.48% と児童書の割合が減少している。
視点3 アメリカの良い面について書かれた資料	図書館の内容について、CIE 図書館時代については「図書室には英米の百科事典をはじめ、伝記を含む英文図書」 ¹⁰ 「子供用コーナーには絵本や児童図書などが棚に配列」 ¹⁰ 、ACC については「収蔵図書は欧米の文化・科学・技術を紹介するものが中心」 ¹⁰ との記述があるが、「アメリカの良い面」を裏付けるような記述はない。	横浜 ACC からの寄贈直後に ACC 文庫室担当であった神奈川県立図書館元職員のインタビュー調査では「アメリカは良い国だからみんなが良い国になって欲しい」「アメリカの文化とか政治とか経済とかを示す内容のものが多かった」との発言があった。
視点4 科学技術について書かれた資料	OCLC 書誌データのうち、1966 年以前に刊行された図書で DDC が付与されているデータの分類別構成比では「応用科学」は 16.45% となっているが、CIE 図書館時代 (1.95%) ACC 時代 (4.19%) とともにこの割合を下回っている (表1)。	科学技術分野の資料は、多くはないが専門的なものが含まれていた。神奈川県立図書館元職員は「科学技術に関する資料が多かったという印象はなかった。(元職員の)小林氏は、技術関係の利用が 34% であったと書いているが、自分は技術書の割合が多かったという実感は持たなかった。」と述べている。
視点5 民主主義や世界平和に関する資料	341.1 (世界平和) に分類される図書が、CIE 図書館時代が 20 冊、ACC 時代が 39 冊ある。民主主義に関しては、書誌データに “democracy” を含む書誌の数は、CIE 図書館時代が 42 冊、ACC 時代が 31 冊である。	CIE 横浜図書館時代も横浜 ACC 時代も自由や民主主義、世界平和に関する図書が多い。
視点6 地域に合わせた資料	例えば日本に関する資料は多い (書誌データのいずれかに “Japan” を含む書誌は 70 件ある) が、それより狭い地域、例えば「仙台」や「宮城」に関する資料は確認できなかった。	CIE 横浜図書館時代・横浜 ACC 時代ともに「地域に合わせた資料」として「日本」や「アジア」に関する資料を収集していた。しかし、それよりも小さい単位、例えば神奈川や横浜に関する資料は確認できなかった。
視点7 「赤狩り」の影響	塩見昇ら ¹⁴⁾ の論文中に記述された赤狩り対象の図書リストのうち横浜 ACC と全く同じ “Critics and crusaders” (Charles A. Madison), “The loyalty of free men” (Alan Barth), “The American record in the Far East, 1945-1951” (Kenneth Scott Latourette) の 3 タイトルを所蔵。一旦除架されたのか否かは確認できず。木村の回顧録 ¹⁰⁾ には一部の蔵書が廃棄されたとの記述がある。	塩見昇ら ¹⁴⁾ は海外図書館の 1 箇所又は数箇所を除かれた図書のリストを記載しているが、24 タイトルのうち “Critics and crusaders” (Charles A. Madison) など 3 タイトルは ACC 文庫に残されている。一旦除架されたのか除架されなかったのかは確認できない。

* 『2017 年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』の内容¹³⁾を一部修正。

視点1「CIE 図書館と ACC 資料との相違点」、視点5「民主主義や世界平和に関する資料」、視点6「地域に合わせた資料」、視点7「[赤狩り]の影響」において、東北大学附属図書館蔵書と神奈川県立図書館蔵書で、全く同じ傾向が見られた。

視点1「CIE 図書館と ACC 資料との相違点」では、CIE 図書館時代と比較すると ACC 時代は哲学、宗教、芸術、文学・小説、歴史・伝記の割合が減少し、社会科学、語学の割合が増加している。東北大学附属図書館蔵書は神奈川県立図書館蔵書よりも ACC 時代の社会科学の資料数が多くなっているが、その理由として、“School of medicine: academic year 1967-68 (Stanford University)”など大学関係資料が400冊ほど含まれていることが挙げられる。それらの資料は、市販されている資料ではなく、各大学が制作・配布している資料である。大学を紹介するための資料であり、当該資料群は神奈川県立図書館の所蔵資料には見あたらない。

視点2「児童書の収集」であるが、東北大学附属図書館蔵書には児童書が含まれていないため、比較することができなかった。

視点3は「アメリカの良い面について書かれた資料」である。神奈川県立図書館蔵書については、横浜 ACC 閉鎖後、寄贈された旧所蔵資料を提供した神奈川県立図書館の「ACC 文庫室」の担当職員への2009年のインタビュー調査において、担当職員は「アメリカは良い国だからみんなが良い国になって欲しい」「アメリカの文化とか政治とか経済とかを示す内容のものが多かった」と述べている⁶⁾。仙台 CIE 図書館及び仙台 ACC に勤務した木村の回顧録¹⁰⁾には、同内容の記述は見られなかった。『宮城県視聴覚教育史』¹¹⁾では、仙台 ACC の所蔵資料について「収蔵図書は欧米の文化・科学・技術を紹介するもの

が中心」との記述が見られるが、アメリカの良い面について書かれた資料が多いとの記述は確認できない。以上のことから、東北大学附属図書館蔵書において、アメリカの良い面について書かれた資料が多い、と言うことはできないだろう。

視点4は「科学技術について書かれた資料」である。OCLC 書誌データのうち、1966年以前に刊行された図書で DDC が付与されているデータの分類別構成比では「純粋科学」が6.97%、「応用科学」が16.45%となっている。東北大学附属図書館蔵書では「純粋科学」の CIE 図書館時代が1.08%、ACC 時代が3.15%、「応用科学」の CIE 図書館時代が1.95%、ACC 時代が4.19%となっている。すべて OCLC の構成比を下回っている。これは、神奈川県立図書館蔵書と同傾向であった。

視点5「民主主義や世界平和に関する資料」については、東北大学附属図書館蔵書と神奈川県立図書館蔵書ともに、民主主義や世界平和に関する資料が多いことが確認できた。

DDC の「341.1」(世界平和)に分類される図書が、東北大学附属図書館蔵書の CIE 図書館時代が20冊、ACC 時代が39冊となっている。

東北大学附属図書館蔵書について、民主主義に関する資料数を調査した。書誌データに“democracy”を含む書誌の数は、CIE 図書館時代が42冊、ACC 時代が31冊となっている。3類(社会科学)に分類される書誌が多いが、2類(宗教)に分類される“The religions of democracy: Judaism, Catholicism, Protestantism in creed and life”(1941年刊)、7類(芸術。建築を含む)に分類される“When democracy builds”(1945年刊。分類は711(都市計画))など社会科学以外の分野の「民主主義」関係資料も確認できた。

視点6は「地域に合わせた資料」である。

東北大学附属図書館蔵書の書誌データを調査したところ、CIE 図書館時代、ACC 時代ともに「日本」や「東アジア」に関するデータは確認できたものの、それよりも狭い地域、例えば仙台や宮城に関するデータは確認できなかった。これは神奈川県立図書館蔵書で神奈川や横浜に関する資料が確認できなかったのと同じである。

視点7「赤狩り」の影響については、塩見らの「マッカーシー下の図書館」¹⁴⁾に記載されていた、図書館から排除された図書のリスト(全24タイトル)に基づき確認した。その結果、東北大学附属図書館蔵書と神奈川県立図書館蔵書はリストに記載されたタイトルのうち、全く同じ3タイトル(“Critics and crusaders”(Charles A. Madison), “The loyalty of free men”(Alan Barth), “The American record in the Far East, 1945-1951”(Kenneth Scott Latourette))を所蔵していることが分かった。この3タイトルは図書館に赤狩りの影響が及んだ1950～54年¹⁴⁾に一旦除架された後に戻されたのか、はじめから除架されなかったのかは確認することができない。木村は、仙台ACCの赤狩りについて、「時期は忘れたが、本国でマッカーシズム旋風(赤刈り)が吹き荒れたときには一部の蔵書が廃棄処分されたこともあった」¹⁰⁾と述べている。

5. 考察

本研究はCIE 図書館やACCがどのような資料を提供していたのかを明らかにすることを目的として行った。DDCの分類別構成比や、いくつかの視点による調査により、東北大学区附属図書館の仙台ACCの旧所蔵資料と神奈川県立図書館の横浜ACCの旧所蔵資料の特徴には多くの共通点があることが分かった。

日比谷CIE 図書館(東京)に勤務した福田利春は、アメリカから入ってくる資料の目録整理作業を東京で一括して行い、そこから各地のCIE 図書館に発送し、各地ではそれを受け入れて日比谷と同じようなサービスを行っていたと述べている³⁾。

本稿では詳しく述べないが、2017年7月に、東京ACCで選書を担当した元職員に対し、選書についてのインタビュー調査を行った。元職員によれば、日本全国のACCの選書は東京ACCで一括して行っていたため、各ACCの選書の傾向が同じであるのは、当然であるとのことである。アメリカ本国で用意した選書対象リストの中から選び、本国から資料が送付されることが多かったが、それ以外のツールからもレファレンス・ライブラリアンである元職員が必要だと考えたものは選んでいたとのことであった。

CIE 図書館は、日本人の非軍事化、民主化を目的として設置された施設であり、ACCはアメリカの広報・宣伝のための施設であった。しかし、民主主義や世界平和に関する資料は、CIE 図書館時代もACCもともに他の主題の資料よりも多くなっている。「341.1」(世界平和)に分類される図書について言えば、東北大学附属図書館蔵書の場合、CIE 図書館時代が20冊、ACC時代が39冊とACC時代の資料数がほぼ倍となっている。

CIE 図書館に関する複数の文献に科学技術関係の資料が豊富で、よく利用されていたとの記述が見られる。例えば神奈川新聞には、横浜CIE 図書館で当時最も利用されていたのは技術であり、全体の34.4%を占めていたと書かれている¹⁵⁾。仙台CIE 図書館及び仙台ACCを利用した西沢潤一氏は、トランジスタを研究対象としており、米国の雑誌論文を手書きで写して、新しい動きを追いかけたという²⁾。しかし、東北大学附属図書館蔵書で

は「純粋科学」の CIE 図書館時代が 1.08%、ACC 時代が 3.15%、「応用科学」の CIE 図書館時代が 1.95%、ACC 時代が 4.19% と決して多いとは言えない。神奈川県立図書館の所蔵資料と同じ傾向を示しており、少なくとも仙台と横浜の ACC 閉館時に残されていた資料には科学技術関係の図書が多くは残されていなかったと言えるだろう。

現在の日本の多くの公共図書館では、児童書の収集や児童サービスに力を入れている。神奈川県立図書館の横浜 ACC の旧所蔵資料の内容を見ると、特に CIE 図書館時代には全蔵書の 10% を超える児童書を所蔵していたことが明らかになっている⁶⁾。しかし、東北大学附属図書館の仙台 ACC の旧所蔵資料には児童書が含まれていないため、神奈川県立図書館の横浜 ACC の旧所蔵資料との比較をすることができなかった。

筆者の神奈川県立図書館の横浜 ACC 旧所蔵資料の研究では、特に CIE 図書館時代と ACC 時代との相違点に視点を置いて、調査・分析を行った⁶⁾。長崎 CIE 図書館、大阪 CIE 図書館、大阪 ACC に勤務した豊後レイコは、CIE 図書館から ACC に移行した際のアメリカ大使館職員パトリシア・ヴァンデルデン氏のスピーチの内容について次のように述べている。

CIE 図書館は、民主化推進のためにアメリカの公共図書館のモデルをみせるという、いわば博愛的な役割を果たしたが、その任務は終了した。これからは国務省のもとに運営される。したがって従来の方針と異なり、アメリカの外交方針を理解してもらうのが使命であり、目的である¹⁶⁾。

CIE 図書館は日本を民主化することを目的とし、民主主義を浸透させるために必要な施

設であるアメリカの公共図書館のモデルを見せるために設置・運営された。一方 ACC はアメリカの外交方針を理解させるための、アメリカの広報・宣伝のための機関であった。その設置目的の違いは提供した資料の違いとして表れている。神奈川県立図書館の横浜 ACC 旧所蔵資料では、CIE 図書館時代は哲学、宗教、芸術、文学・小説、歴史・伝記の割合が ACC 時代に比べると多く、ACC 時代には社会科学、語学の割合が増加している。CIE 図書館時代に全体の 1 割を超えていた児童書は、ACC 時代になると 6.8% と減少している。東北大学附属図書館蔵書についても、所蔵していない児童書を除き、同じ傾向を示している。即ち、CIE 図書館時代は各分野バランス良く資料が提供されていたこと、特に文学・小説、歴史伝記分野に厚かったこと、ACC 時代には社会科学関係の資料が多く、全体の 3 分の 1 を超えていたこと、である。

おわりに

筆者は、神奈川県立図書館の横浜 ACC 旧所蔵資料及び東北大学附属図書館の仙台 ACC 旧所蔵資料について調査し、分析した。その結果、調査対象とした 2 つの図書館の ACC 旧所蔵資料は同じ傾向を示していることが明らかになった。即ち、CIE 図書館は日本の民主化、非軍事化、及び「公共図書館のモデル」を実現するような蔵書、ACC はアメリカの広報・宣伝を実現するような蔵書を保持していたことである。神奈川県立図書館の横浜 ACC 旧所蔵資料調査の結果明らかになったことを、東北大学附属図書館の仙台 ACC 旧所蔵資料の調査が補強した結果になった。

今後は、現在、他にまとまった形で残されている新潟大学附属図書館が所蔵する新潟

ACC旧所蔵資料, 愛知県図書館が所蔵する名古屋ACC旧所蔵資料, 神戸市立図書館が所蔵する神戸ACCの旧所蔵資料についても調査することを予定している。

もう一つの研究の方向として, CIE図書館が占領期の日本の学術分野に対してどのような影響を与えたのかを探ることを考えている。この方向については, 現在調査をはじめたばかりであり, どの程度の広がりを見せるのか予想できない状況にある。

現在, 神奈川県立図書館及び東北大学附属図書館に残されている資料は, 横浜ACC及び仙台ACCが所蔵していた資料の全てではない。他の機関に寄贈されたものもあれば, 寄贈された後に汚破損などにより失われたものもある。東北大学附属図書館では主に洋書を所蔵しているが, ACCでは和書やパンフレット類, 逐次刊行物, 視聴覚資料なども所蔵していた。本研究が神奈川県立図書館及び東北大学附属図書館の現存資料のみを調査対象としているため, CIE図書館及びACCの所蔵資料の状況を明らかにすることはできない, との意見があることは承知している。筆者が調査した限り, 現在CIE図書館及びACCの旧所蔵資料を所蔵している図書館において, 洋書, 和書, 視聴覚資料以外の資料は確認できない。また, 各所蔵館で除籍の記録が確認できないため, 現在までに失われた資料について, 調査することは出来ない。逐次刊行物については, 断片的に資料名が記されている新聞記事や旧職員の回想記などがあるため, 現物は確認できないながらも, タイトルについては一定程度把握できると考えている。

筆者は, 資料が100%残されていないからといって, 現存資料の分析が無意味であるとは考えていない。失われた資料があることを勘案した上で, 研究することが必要だと考える。

本稿は, 2017年6月3日に日本図書館情報学会春季大会で発表した研究内容に, その後の研究成果を反映させたものである。本研究を行うにあたっては, 東北大学附属図書館の吉植庄栄氏をはじめ, 同図書館関係者に多大なご協力を賜った。ここに記して謝意を称したい。

注・引用文献

- 1) 大江健三郎. あいまいな日本の私. 岩波書店, 1995, 232 p.
- 2) 中川正人. 仙台CIE図書館と仙台アメリカ文化センター. 市史せんだい. 2003, vol. 13, p. 29-44.
- 3) 金子量重他. 在日外国図書館2 CIE図書館. びぶろす. 1982, vol. 33, no. 8, p. 177-200.
- 4) T. Suzuki; A. Arakawa; S. Koizumi; M. Takasuna. CIE Libraries supporting the Development of psychology during the allied occupation in Japan. Japanese Psychological Research. 2016, volume 58, no. Suppl. 1, p. 19-31.
- 5) 吉井和子. 合衆国海外情報センターの性格: 図書館活動を中心として. Library Science. 1963, no. 1, p. 127-154.
- 6) 石原真理. 横浜アメリカ文化センター所蔵資料と設置者の意図. 日本図書館情報学会誌. 2010, vol. 56, no. 1, p. 17-33.
- 7) General Headquarters Supreme Commander for the Allied Powers. Mission and accomplish of the occupation in the Civil Information and Education Fields. [Tokyo], Civil Information and Education Section, 1950, 5 p.
- 8) 渡辺靖. アメリカン・センター: アメリカの国際文化戦略. 岩波書店, 2008, 221 p.
- 9) 今まど子. "CIE図書館の研究: レジュメ". CIE図書館を回顧して. 2003, p. 3-6.
- 10) 木村多実雄. わが青春の回顧録: CIE図書館とアメリカ文化センター. 木村多実雄, 2002, 17 p.

- 11) 内海貞太郎. 宮城県視聴覚教育史. 宮城県視聴覚教育振興会, 1998, 587 p.
- 12) CIE 図書館資料及び ACC 資料は DDC により分類されていた。本研究で使用した DDC は 1951 年に刊行された “Decimal Classification Standard (15 th) edition” (devised by Melvil Dewey) である。
- 13) 石原真理. 仙台アメリカ文化センター資料の分析：横浜アメリカ文化センター資料との比較を中心に. 2017 年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集. 2017, p. 75-78.
- 14) 塩見昇, 天満隆之輔. マッカーシー下の図書館. 図書館界. 1969, vol. 20, no.5, p.156-170.
- 15) 開館 1 周年を迎えて：二十三日 CIE 図書館記念の夕. 神奈川新聞 1949 年 9 月 21 日, p. 2.
- 16) 豊後レイコ. 八八歳レイコの軌跡：原子野・図書館・エルダーホステル. ドメス出版, 2008, p. 251.

